



WE

2016年6月1日～2017年5月31日

2016年度 活動報告書・決算報告書

ビジョン

女性が自らをいかし元気に活躍できる



ミッション

女性たちが、地域、社会につながるプラットフォームとなる
女性たちが必要な力をつける機会をつくる
災害を経験した女性たちの声を内外に届ける



特定非営利活動法人ウィメンズアイ



グラスルーツ・アカデミー東北

▶ 岩手・宮城・福島

グラスルーツ・アカデミー東北 国内研修

背景

2015年3月の国際地域女性アカデミー in Tohoku以来、東北被災3県で、社会課題に関わる地域活動をおこなう若年女性のエンパワーメントと広域ネットワークづくりを通じて、孤立しがちな女性リーダーたちをつなぎ、互いの活動から学び合い、高め合える関係性をつくりだし、発展し続けている活動。

実績

- **グラスルーツ・アカデミー東北2016 in 福島(研修)**
テーマ 地域とのつながりをどうつくるか
2016年8月5～7日 田村市 17名参加
- **グラスルーツ・アカデミー東北2016 in 宮城(研修)**
テーマ 多様性をいかす
2017年5月12～14日 蔵王町・山元町 19名参加
- **コミュニティアクションの実施**
アカデミー参加者が各地域で実施するアクションへの10万円までのミニファンド。今年度、9件の実施があった。
 - ・ 岩手県大槌町 地域の高校生とのプロジェクト
実施者：神谷未生(参加者23名)
 - ・ 岩手県大槌町(東京)
東京の大槌出身20代女性のプロジェクト
実施者：神谷未生(参加者8名)
 - ・ 岩手県盛岡市 女子高校生・大学生対象のデートDV啓蒙講座
実施者：姉帯幸子 参加者23名
 - ・ 宮城県南三陸町 20～30代移住者勉強会
実施者：栗林美知子(参加者21名)
 - ・ 岩手県陸前高田市 ママフェス2月
実施者：菅野あゆみ(参加者182名)
 - ・ 岩手県陸前高田市 ママフェス3月
実施者：板林恵(参加者143名)
 - ・ 宮城県仙台市 DVモラハラカフェ
実施者：竹下小百合(参加者4名)
 - ・ 福島県(東京) 福島放射能についてのお話会
実施者：佐原真紀(東京：参加者37名)
 - ・ 宮城県気仙沼市 鹿折での子育て座談会3回
実施者：丹澤千草(参加者77名)

成果

2016年8月の福島でのアカデミー終了後のアンケートでは参加者17名のうち、14名(82%)が困った時に助け合う、イベントに参加しあうなど、研修で築かれた人脈を活用していると回答。今年度実施されたコミュニティ・アクションでも9件のうち、5件がアカデミーで生まれた人的つながりを活用したものとなっている。

また、参加者への個別インタビューを通して、地域で女性が貢献していくための課題がより鮮明に浮き彫りになってきた。セミナーや各方面への発信を通じてWEとして問題提起を行っている。

アカデミー参加者本人たちにも発信の機会創出をおこなってきた。5名が東洋経済オンライン記事でのインタビュー掲載されたほか、東京大学社会科学研究所、協働アクションリサーチ報告にてアカデミー参加者3名がアカデミーと東北の女性が置かれた状況について報告した。
*この事業は国際NGO JENとのパートナーシップのもとおこなった



8月福島県田村市での開催。活動内容を超えて共通する課題を話し合う



託児を用意し、小さい子を持つママも参加、それが若い大学生の刺激に



▶ アメリカ シアトル

グラスルーツ・アカデミー東北 in シアトル(海外研修と発信)

背景

グラスルーツ・アカデミー東北に参加する若年女性たちの草の根地域活動が持続し、真のソーシャルイノベーションにつながるには、女性たちが自信を持ち自己肯定することが突破口であると確信。NPO及び社会的企業の先進地シアトルでリーダーシップ研修を行った。

実績

英-日通訳付き6日間のオリジナルプログラムをシアトルのNPO iLEAP(アイリープ)の全面協力を得て作りあげた。日々の活動や生活から完全に離れ、自分の成長のためだけに時間を使う環境を整え、参加者一人ひとりが問いや体験から学び取っていくスタイルの研修を開催。町に出る5つのアクティビティも行った。

これまでのアカデミー参加者のうち20～30代を応募資格とし、面接による選考から、岩手県4名、宮城県3名、福島県3名の計10名が参加。サポートメンバーとしてウィメンズアイから代表の石本、理事の田浦、若希・スティール東大准教授、通訳のSosha 光永が随行した。

帰国後、3/7ロクシタンカフェをはじめ東北と東京で12回の報告会を各自が開催し、合計150名が参加した。

成果

内省に十分な時間を取り、参加者各自が借り物ではない自分自身の言葉でビジョンを語れるようになった。また、ビジョンの実現のために自分がやるべきことを優先する思考を身につけた。

常にまわりの目を気にする習慣が身についていることを自覚し、萎縮せず今の自分を認め、自分は東北で活動するリーダーだと自信を持って言えるようになった。セルフケアの技術も身につけることができた。

*このプログラムはロクシタンとロクシタン財団の支援でおこなった



日本では振り返る余裕がない自身のパッションやゴールなどを語りあった



左/地域の方を招いての朝食イベントがアカデミー滞在中に催され、東北に興味を持つ方々が集まった。日系アメリカ人やiLEAPの理事、東日本大震災後に東北を訪れたことのある米国人などと交流した

右/東北の復興と女性リーダー育成活動に関し、国連女性の地位委員会サイドイベント登壇、UCLAでの報告会などで発信した





ウィメンズアイ 2016年度の活動 南三陸町と近隣地域

うみさと暮らしのラボ ～里山・里海の

背景

南三陸町をはじめとする宮城県北沿岸地域では震災後の子育て世代の人口流出が激しい一方、この土地の自然のめぐみをあらためて見だし、ここで暮らし続けていく「豊かさ」に自分らしい方法で挑戦したいという女性・若者たちがいる。こうした人々とともに南三陸町の里山での「ひころマルシェ」をまんやかに、講座・研修での学びを通じての仲間づくりと小さな仕事づくりの活動をはじめた。

パン・菓子工房oui 事業 第1期

実績

- 地域の女性たちが共同利用できる、パン菓子製造のシェア加工場をNPO法人ウィメンズアイが建設し、法人として保健所の衛生許可を取得。地産の食材をいかしたパン・菓子で地元でパンをめぐるつながりを作りながら、小さくでも製造販売を始めたい、一歩踏み出したいという女性たちが会員登録し、工房アドバイザーに学びながら商品としてのパンを作り、販売しはじめた。
- 講座、勉強会、研修、相談会 計5回開催 のべ参加27名

成果

当事業を支える目的で週末2日間、工房でWEとしてパンの製造直販を開始。町内での新しい取組として工房を訪問する人が増えており、つながりづくり、情報収集の機会が増えている。また、地域の農家との具体的な協力関係ははじまった。2017年度6月に開催したひころマルシェでは、工房利用者3グループが自らの屋号でパンの販売に出店した。

*この事業には、以下の助成・ご寄付をいただいた
 [工房建設、設備]
 フェリシモとうほくIPPOプロジェクト
 第5期／あい基金／東京エレクトロン株式会社／CAMPFIREクラウドファンディング計111名／個人・団体寄付計66名
 [スタッフ育成、事業運営]
 大和証券フェニックス・ジャパンプログラム／東日本大震災現地NPO応援基金【特定助成】『しんきんの絆』復興応援プロジェクト

2016年10月に着工し、地元大工さんほか、多くの方の手を借りながら2017年2月25日に完成。土地のめぐみのシンボル、南三陸杉を使っている



2017年6月のひころマルシェでのパン・菓子工房ouiの共同出店



2016年12月から工房利用者の募集を行い、登録手続きを行った。2017年6月現在、工房の組合員15名



資源をいかす小さな仕事とネットワークづくり



里山マルシェを軸にした人材育成とコミュニティづくり

実績

- ひころマルシェ～おいしく、たのしく、すこやかな暮らしをこの土地で
 「この土地で続く暮らし」をテーマに、南三陸町入谷ひころの里と共催で10月22日に第3回目となる「ひころマルシェ」を開催した。出店候補者へのはたらきかけをおこない、手づくりの食、雑貨、羊毛糸紡ぎほか各種の体験コーナーでにぎわった。入場者数543名、当日出店数38ブース
- 実技講座
 南三陸町内でプロを講師に以下の実技講座を行った。
 ・ 繭から糸をつくる講座（繰糸・総揚げ・精練・撚りかけ）3回開催 のべ参加21名、講師工房への視察研修参加5名（町の農林水産課によるサポートあり）
 ・ 木工とリノベーションの講座（道具の使い方、ベンチ作り、箱作り、棚作り、壁貼り、雨水対策など）9回開催 のべ参加63名
 ・ 草木染め講座 1回開催 のべ参加7名
- 遠野視察研修
 11月、南三陸町で自分の事業や活動をおこなっている20～30代の男女とともに、若者による取り組みの先進地・岩手県遠野市で、Next Commons Labの当事者たちに現場で話を聞き、地域資源を活かす手法や考え方、理解を深めるワークショップを行った。参加6名
- 食のラボ交流会
 食卓とともに囲むことで生まれるネットワーク。生産者から学び、地元の食材をつかった食を工夫し、みんなで食べる「食のラボ交流会」を3回開催した。
 ・ うみさと暮らしのラボキックオフ 参加20名 会場：手のひらに太陽の家
 ・ 薪窯Pizza++の会 参加22名、「In Transition2.0」ミニ上映会参加7名 会場：校舎の宿さんさん館
 ・ 冬のあったかスープの会 参加28名 会場：校舎の宿さんさん館

成果

ひころマルシェの出店は20～40代層が多いなか、伝統食のグループ、大工さんなど地元シニアの出店があり、ボランティアとして町内の高校生も初めて参加。食の交流会にも高校生からシニアまで幅広い参加があり、このテーマに関心を持つ多様な人々の交流が生まれている。
 実技講座はヒアリングで具体的ニーズの高いものに絞った結果、各参加者によって「ひころ織りっこ」「南三陸木工女子部」「草木染め研究会some-lab」のサークルが生まれ、場所や道具を共有して情報交換や自主的活動が活発におこっている。とくに南三陸木工女子部で制作した共用の什器が大活躍しており、これらを使ってメンバーが町内外での小さなイベントや出店などを行なっている（海の日の本屋さん、さんさん朝市、草木染めワークショップほか）。町の農林水産課のサポートもあり、事業を通じて町内・近郊の行政、NPO、団体、事業者との関わりが深まり、さまざまな小さな協力関係がうまれている。
 *この事業は2016年度みやぎ地域復興支援助成金で実施した



左上／株式会社「鳥」さんによるすずめバルーンのパフォーマンスに大きなインパクトがあり、多くのお客さんに楽しんだ
 右上／ひころ織りっこでは、昔の道具を使って繭から糸をとっている
 下／遠野視察ではNCL遠野メンバーとも交流



ウィメンズアイ 2016年度の活動 南三陸町と近隣地域

「子育てしやすい」をつくる 多様な人々のつながりづくり

子育て世代のママと多様な人々をつなぐ事業

背景

震災の影響で遊ぶ場所が少なくなり子どものたちの体力が落ちているという不安、また、子どもを連れて一緒に出かける場所がない、ママが学べる場所がないなどの声を受け、イベントや講座を開催しながら、地域の多様な人たちのサポートとつなぐことを試みた。

実績

- **みんなの子そだてフェスタin南三陸**
地元のママサークル「やってみるもん!委員会」とWEの共催で2016年7月3日に伊里前福興商店街駐車場にて開催。当事者252人、スタッフも入れると265人の参加があった。規模は小さかったが、キッズダンスの発表や、親子で楽しめる体験コーナーなど、ママたちが主体的にアイデアを出して活躍した。
- **子どもあそび場@ひころマルシェ**
芝生広場のあるひころの里で、竹カッポ、鬼ごっこなどの昔遊び、お絵かき、読み聞かせなどのコーナーを設けた。

成果

イベントや活動を通じてキッズサポーターのネットワークを広げることができた。ジュニアリーダー、シニアリーダー、地域の子ども好きな女性、パパなどの参加が増えている。また、子そだてフェスタでは前年は参加者だったママが出店側にまわるなどの変化もおこった。

*この事業はジョンソン・エンド・ジョンソン 東北被災地での市民・コミュニティのエンパワメントプログラムの助成で開催した



ママたちが出店・運営側にもまわってイベントを盛り上げてくれた

シングルマザーのためのExcel研修 みんなでMOS!

背景

求人はあってもパソコンスキルがないこと情報弱者であることによって望む就業を阻まれるというミスマッチが起こっている。そこで、宮城シングルマザー親子の会wawawaのメンバーから学習環境に困難をかかえる7名がエントリーし、グループとして助け合いながら学ぶ研修を企画した。



安心して子どもをまかせ、ママたちが学ぶ環境をつくる

実績

今年度は30回、子どもも含めのべ316名が参加(ママ189名、子ども106名、スタッフ121名)。うち、2名が2017年5月までにMOS-Excelに合格したほか、全くゼロからの初心者だった2名がパソコンを苦手意識なく使えるようになった。

成果

地元の協力者が会場として自宅を解放したアットホームな空気のなか、ママたちが勉強している間、子どもたちは近所の女性たちの助けを借り、自然の中での遊びをのびのび体験できた。託児つきを一步進めて子どもたちにもプラスの学びがうまれる講座の可能性が広がった。

*この事業はキャピタル・インターナショナル株式会社の助成及び宮城県NPO等による心の復興支援事業補助金で開催した

背景

仮設住宅から高台の住宅、災害公営住宅への入居が加速した2016年度。仮設住宅のコミュニティから本設での暮らしが落ち着くまでの移行期は、広域生活圏での人のつながりが真価を期待される時期でもあった。2013年度から続けている当事業を通じて、ゆっくり継続しているサークルや勉強会から、徐々に経験と学びに基づく自発的な動きが生まれている。

実績

- 以下の勉強会、サロン活動を開催した。
- **課題解決型コミュニティ育成**
 - ・宮城シングルマザー親子の会wawawa 8回(当事者のべ94名参加)
 - ・南三陸まなびの女子会(まちの復興を考える多世代女性の会) 2回(当事者のべ27名参加)
 - ・南三陸第2のふるさとカフェ(U・Iターン者と若者の交流勉強会) 2回(当事者のべ87名参加)

●地域継続する趣味のコミュニティ育成

- ・戸倉 体操教室21回(当事者122名参加)
- ・歌津 刺し子サークル リアンの会14回(当事者のべ87名参加)
- **お楽しみ教室・サロン活動**
 - ・編み物教室1回(当事者のべ24名参加)
 - ・お楽しみパン教室1回(5名参加)
 - ・福祉まつりでのお楽しみ身体測定(24名参加)
 - ・羊毛喫茶2回(のべ31名参加、うち1回はのぞみ福祉作業所での開催)

成果

町の未来を考える南三陸まなびの女子会では、復興の形がみえてきたまちに賑わいをつくる準備として、町の社会教育課の協力を得て近隣の登米市新田での「食の文化祭」へ視察に行き南三陸町での取り組みへの検討を始めた。また、今年度は、南三陸町で活動するNPOや福祉作業所との協働が一層進んだことも成果であった。
*この事業は平成28年度宮城県NPO等による心の復興支援事業補助金で実施した

●2016年度 決算報告(概算) 2016年6月1日～2017年5月31日

収 益	¥45,817,655
助成金・補助金	¥19,642,188
自治体からの助成金・補助金 (*1)	¥7,084,753
民間からの助成金 (*2)	¥12,557,435
寄付	¥13,695,548
プロジェクト指定寄付 (*3)	¥13,341,430
一般寄付 (*4)	¥354,118
事業	¥12,222,882
交流事業	¥96,155
人材育成事業 (*5)	¥10,380,864
うみさと暮らしのラボ事業	¥525,017
防災事業	¥573,584
広報事業	¥124,222
うみさと暮らしのラボ事業 (パン菓子工房事業)	¥523,040
会費	¥257,000
その他	¥37

費 用	¥45,817,655
プロジェクト費	¥36,712,230
交流事業	¥5,808,552
人材育成事業	¥18,392,205
うみさと暮らしのラボ事業 (パン菓子工房事業含む)	¥12,285,676
防災事業	¥162,846
広報事業	¥62,951
管理費	¥715,907
法人税、住民税及び事業税	¥101,100
過年度損益修正損	¥2,014,055
当期正味財産増減額	¥6,274,363
前期繰越正味財産額	¥6,450,034
次期繰越正味財産額 (*6)	¥12,724,397

*1 内訳：みやぎ地域復興支援助成金、宮城県NPO等による心の復興支援事業補助金

*2 内訳：あい基金、大和証券フェニックスジャパン・プログラム、ジョンソン・エンド・ジョンソン 東北被災地での市民・コミュニティのエンパワメントプログラム、東日本大震災現地NPO応援基金

【特定助成】『しんさんの絆』復興応援プロジェクト、フェリシモとうほくIPPOプロジェクト第5期

*3 グラスルーツ・アカデミー東北シアトル研修、パン・菓子工房プロジェクト、シングルマザーのためのExcel研修、宮城シングルマザー親子の会wawawa、ひころマルシェ、熊本支援

*4 寄付者名簿(5万円以上)はホームページにて掲載しております。

*5 NPO法人JEN様からのグラスルーツ・アカデミー東北第二期・第三期受託事業を含む

*6 複数年度にまたがる事業への助成金などが含まれます

Message from Women's Eye

いま東日本大震災の津波被災地では、公共工事や住宅再建が目に見えて進んでいます。南三陸町では2017年3月に災害公営住宅8団地738戸が完成しました。一方、人の気配が感じられた長屋方式の仮設住宅から、コンクリート数階建の災害公営住宅での生活の孤立が心配されています。町の人口は5年で22%減少、出生数は震災前年から4年で36%減少しました。これは20～30代の女性の減少率が同年代の男性に比べて高いためと考えられます。日本全体で地方から都市へ流入する若い女性が増え続けています*1)。震災により、被災地ではこの傾向が加速しています。

日本政府は「女性の活躍推進のための開発戦略」を2017年5月に打ち出しました。そのビジョンは「女性が自らの人生に関する選択肢を広げ、主体的に自らの可能性を自由に追求できるような環境整備や制度構築を支援」、「女性の参画の阻害要因となっている、家事、育児、介護、地域活動などの無償のケア労働の不均衡な男女間の負荷格差を認知し、労働の省力化及び負荷の再分配の仕組みを構築する」などと明記されました。日本が国をあげて取り組むSDGs実施指針*2)では、人権の尊重とジェンダー*3) 平等の実現及びジェンダーの視点の主流化を、SDGsの17目標全ての実現に不可欠なものであると発表。日本も世界も、女性の活躍を後押しする新しい時代への岐路にたっています。復興の先の、町の未来を誰もが暮らしやすい地域へと変える、その鍵はここで暮らし続ける若い世代が自分らしく挑戦できる仕組みをたくさんつくることです。ウィの活動は、女性たちが力をつけ、つながり、挑戦し、自分に自信を持ち一歩前にでられる場と機会をつくることに注力し続けています。国やSDGsの動きに連動し、そのスピードを加速することで、誰一人取り残さない復興を目指すことにつながると信じています。

*1) 国立社会保障・人口問題研究所・林玲子部長の分析

*2) SDGsは2030年までに世界が達成を目指す持続可能な開発目標。日本の実施指針を2017年7月の国連ハイレベル政治フォーラムで河野外務大臣が報告。

*3) 身体の特徴など生来の性別の違いではなく、社会的、文化的につくられた性差のこと。「男は仕事、女は家事育児」といった「男はこうあるべきだ」「女はこうあるべきだ」とする性別による役割分担も含まれる。

特定非営利活動法人ウィメンズアイ 代表理事

石本めぐみ



ウィメンズアイ 2016年度の活動

東京でのイベント・広報



●三陸ワカメまつり～WE活動展

2017年3月25、26日「上野桜木あたり」で、うみさと暮らしのラボをはじめとする活動の成果を展示。マルシェコーナーではWEのブースのほか、南三陸町内の南三陸おふくろの味研究会、椎彩杜、南三陸あったらもん再生委員会が販売研修として参加した。

その他、東京では駒込大観音ほおずき市、アースガーデン、中野哲学堂復興イベント、ピースオンアース、深川美楽まつりなどに出品

特定非営利活動法人ウィメンズアイ

Women's Eye

ホームページ：http://womensseye.net

ブログ：http://womensseye.blogspot.jp

Facebook：https://www.facebook.com/Womensseye20130604

Twitter：https://twitter.com/womensseye1

〒986-0782 宮城県本吉郡南三陸町入谷字山の神平10番1号

電話/FAX 0226-25-9517 メール info@womensseye.net

年会費で活動を支援くださる
賛助会員を募集しています

○2016年度末(2017年5月31日) 現在
正会員：42名 賛助会員：27名 スタッフ総数：6名
ボランティア参加者数：年間述べ241名

事務局長 栗林美知子

○役員一覧(2017年12月現在)

代表理事 石本めぐみ

副代表理事 橘高真佐美(弁護士)

理事 塩本美紀

理事 田浦佐知子

理事 西村和代(カラースジャパン(株)代表、
エディブル・スクールヤード・ジャパン共同代表)

理事 清野浩司(中小企業診断士)

理事 江本嘉伸(地平線通信代表世話人)

理事 田島誠(環境エネルギー政策研究所所任研究員、
JANIC防災アドバイザー)

監事 成田由加里(公認会計士・税理士)



WE4周年の日、南三陸町
入谷のWE事務所前にて